

合併をしない町づくりの基盤を

どのように構築するのか

質問

今年度も財政調整基金繰入額が昨年度実績の2倍以上の当初予算になりました。「湯沢町は他会計への繰り出し金が多く特殊な財政運営をしているので均衡予算は無理なんだ」と以前答弁されてきました。合併をしない町づくりを唱えている以上、町民に説明すべきである。

3年間で5億円の削減計画、その後の見通しは。

町長答弁

近年の経済動向そして三位一体改革の方針の最中では先の見通しが出来ない状況である。町は財政再構築



急対策として予算圧縮計画を示し取り組んでいる。先

の見通しについては、国の方針や経済の動き等を見据えた中で、対応できる体制作りをしていきたい。

総務課長補佐答弁

3年後の圧縮計画は現段階では示せませんが、財政の見通しについては21年までの計画を示してある通りです。

質問

「国の方針や経済の動きが定まらないから、将来を見据えた方針が示せない」というのは納得できない。合併をしない町づくりを進めるからには、それなりの方針を示さなければ不安が

募るだけ。削減・圧縮の先には明るい光が射すのか知りたいと思う。

町長答弁

予算を編成するに至って国・県からの補助金も大き

な要素であり、税収の落ち込み等が現状での大きな不安要素としてある以上は、

将来を見据えた方針が示されないのが現実である。目の前の課題を一つ一つ確実にクリアしながら町民に示していく。

質問

町民に対し合併をしない方向の位置付けは、町長の町民に対する姿勢だと思えます。現況での財政不安を強調して町民に対し協力を求めています。このような時こそ町長自らが湯沢の財政力を駆使して自立の町づくりの姿勢を示し安心を促すべきと思うが。

町長答弁

財政難という暗い部分のみが強調されたことは確かです。今後の行財政等を見直しのなかで明るい方向を見出し、町民には説明をしていきます。

合併をしない町づくりの指揮を再度とる意志があるのか。

質問

就任した際、温泉とスキーの町をより明確に観光の町と位置付け、30年構想の町づくりを進めてきたと思う。構想の折り返しでもある本年、政治経済の変革の中で合併や財



花木水通り

政難などゆめゆめ思いもされなかったと受け止めます。町民に対し行政の長であり政治家でもある責任は重大であると認識しています。退くも攻めるも一言ですが、今日までの町長職を振り返りながら、現在の湯沢町の置かれている場面を考えて胸中を示していただき

町長答弁

就任以来15年半が経過する中で、花・水・木構想で町づくりを進めてきました。パブル期には世界一のロープウエーを建設・病院の建

設など良い時期も経験いたしました。しかし今日に至っては苦しい日々が続いています。町長としての責任の重大さからであります。町長としてやらねばならない問題（行財政改革の敢行、合併をしない町づくりの指針、観光事業会計の方向など）を自らが、職員と一丸となって果たし、新たな観光湯沢町を構築するのにも責任の取り方だと考えています。従ってこれらを踏まえ、町長として再度指揮をとる意欲があることを述べて答弁とします。